

会 議 録

会議の名称	第1回 中野市総合戦略会議
日 時	平成27年7月13日(月) 18:30~20:20
会 場	市民会館 42号会議室
出席者等	<ul style="list-style-type: none">・出席者 : 前澤憲雄、高橋一隆、小野建一、山浦直人、宮川浩、関貴彦 渡辺信也、山口和彦、山下健一、本間直幸、山口美緒、上野見 吉原明彦アドバイザー・欠席者 : 三枝康雄、相子靖子、内山奈月・市出席者 : 横田副市長、大堀総務部長、小橋政策情報課長、 柴本政策推進係長、青木主任技師
次第	<ol style="list-style-type: none">1 開会 (進行: 大堀総務部長)2 委員の委嘱(資料1)3 副市長あいさつ4 自己紹介5 会長、副会長の互選6 会議事項 (1) 中野市まち・ひと・しごと創生総合戦略策定方針について(資料2) (2) 中野市人口ビジョン(案)について(資料3) (3) 今後のスケジュールについて(資料4) (4) 意見交換7 その他 次回開催予定 平成27年8月6日(木) 午後6時30分8 閉会
発言内容	別紙のとおり

【別紙】

第1回 中野市総合戦略会議

平成27年7月13日（月）

18：30～20：20

市民会館 42号会議室

1. 開会（18：30）

（大堀総務部長）

定刻になりましたので、ただ今から「第1回中野市総合戦略会議」を開会いたします。皆様には、大変お忙しい中、ご出席いただき、ありがとうございます。私は、本日の進行を務めさせていただきます、総務部長の大堀でございます。よろしくお願いたします。なお、本会議につきましては、資料1の中野市総合戦略会議設置要領の規定に基づき進めてまいります。ただ今の出席委員数は15名中11名であります。設置要領第6条第2項の規定により過半数に達しておりますので会議は成立していることを報告いたします。

2. 委員の委嘱

（大堀総務部長）

大変恐縮ではございますが、委員の皆様の委嘱書を、机の上にあらかじめ配布させていただいております。お引き受けいただき、総合戦略の策定・推進に向け、ご意見を頂戴したいと思いますので、よろしくお願いたします。資料1の裏面に名簿がございますのでご覧ください。

では、総合戦略会議の開会にあたり、横田副市長からごあいさつ申し上げます。

3. 副市長あいさつ

副市長の横田でございます。本来であれば、市長がご挨拶すべきところではありますが、本日はあいにく他の公務のため、代わってご挨拶させていただきます。

この会議は、昨年から国が推進している「地方創生」に向け、中野市まち・ひと・しごと創生総合戦略を策定するにあたり、幅広く関係者のご意見をお聞きし、反映させることを目的に設置するものです。選出にあたっては、国が示したいいわゆる「産官学金労言」の各分野から、様々な経験や知見をお持ちの皆様を市内在住者に限らずお願し、あわせて本市に移住された方にも委員になっていただいております。中野市の将来のため、忌憚のないご意見を頂戴したいと考えておりますので、よろしくお願いたします。

4. 自己紹介（18：35）

出席委員による自己紹介

5. 会長、副会長の互選について（18：47）

会長に前澤憲雄委員、副会長に上野見委員が選出される

6. 会議事項 (18 : 53)

(1) 中野市まち・ひと・しごと創生総合戦略策定方針について (資料2)

(2) 中野市人口ビジョン (案) について (資料3)

(3) 今後のスケジュールについて (資料4)

(4) 意見交換 (19 : 20)

会長	委員の皆様全員からご意見を頂戴したいと思います。最初であるので、各委員さんが活動されている中で、豊富にご意見等をお持ちかと思しますので、よろしくをお願いします。
会長	中野市はえのきたけ産業は全国の生産量の40%を占めている。これは日本の人口に対して5,000万人に貢献している。きのこの食生活を通じて、どのような貢献ができるかを日々考えている。きのこを毎日食べてもらう国民を増やすことによって、健康な食生活に貢献する。きのこは食物繊維が多く、現代の食生活では食物繊維を摂取しにくくなっているため、きのこを食べてもらう。全国民にきのこ類を食べてもらう、何故食べなきゃならないかという理由も含めて発信していく。裏を返せば、この地域のきのこ産業の振興になり、振興となれば雇用促進に繋がる。ただ単に素材としてのきのこ類をアピールするのではなく、加工して付加価値を付けて、すぐに食べられる。1年中、時期を問わず食べられる商品にする。この地域から全国に販売すると同時に、この地域に来ていただいて食べてもらう、交流してもらい消費してもらう。中野地域のきのこやエリンギ品目の地域まるごと総合6次産業化対策と申し上げているが、こういう取り組みと通じて、新たな雇用を生み出していく。今回の総合戦略と通じる部分があり、今後、色々な角度から考えていきたい。
副会長	<p>人口についての説明を聞いて感じたことは、人口が減らないためには、女性は何人子どもを産まなきゃいけないと感じる。子どもは補助金等があるから産むのではなく、この人と結婚し、その人が生まれ育った地域に住み、何人欲しいから産むのであって、それを全面に数字で出されることに女性として抵抗を感じる。</p> <p>取材で東京から引っ越して来た方で中野にIターンで農業を始めた方にお話しを聞く機会があった。その方は中野に農業をしに来たわけではなく、たまたま中野であった。山ノ内町にはスキーが縁で来たことがあって、中野を知らなかったわけではないが、賃貸住宅ではお金がかかるので、家を探していたら中野で見つかった。そこに住んだら、たまたま畑があり、自給分は作ろうと思い耕作を始めた。それがきっかけで農業を始めた。経験は無かったが、JAや近所の方に教えてもらいながら、今では休耕田でも農業をしている。</p> <p>話しを聞く中で、人とのつながりが大切なのだなと感じた。</p>
委員	自然動態は出生率、中野市で子育てをする、社会動態は企業に雇用され中野で仕事をするを解釈するが、社会動態より自然動態を改善させることが重要だと思う。高齢者が多くなり、人口が減少すると、若手の農業者に集約されてくる。かといって、大量の農地を任されても手が回らず、現状そうなっている。ただ、高齢者の方々は大規模でも小規模でも、作った作物を直売所等で販

	<p>売されているが、車を運転できない方もおり、どうにかしたいと考えている。とても技術もあるし、行動的なので、中野市として高齢者に厚い支援も必要だと思う。出生率といった子育て世代への支援も必要だと思うが、高齢者あつての中野市と思う。</p> <p>就農者でも、一人前になるまでに3年は必要かと思うので、その間の農業に対しての支援についても考えていく必要がある。</p>
委員	<p>この資料のとおり、人口は減少していくのだと思うが、中野市に魅力を持って移住していただくことがポイントだと思う。きっかけは副会長の話しでもあったように、スキーをしていた、たまたま移住してきて、住みやすく、環境が整っていて移住されてきたと思う。志賀高原出身ということもあり、昔はスキー場は何もしなくてもお客が来ていた。自分も大学までスキー選手であったが、東京に出ていき、始めは度々地元へ帰ってきていたが、徐々に減ってくる。理由は何だろうと考えてみると、スポーツメーカに勤めている中で、国内・海外へ行く機会が多くあり、色々な地域と照らし合わせて考えていた。中野市で考えてみると、アピールするものが無い。</p> <p>周辺にはリゾート地がある。北信地域という括り、妙高まで含めると、車1時間圏内に13ものスキー場がある。リゾート地としては可能性がある場所だと考えて、中野にカフェをオープンした。ただの通過点でなく、来てもらう、留まってもらう、こんな面白い人がいる、こんな美味しいものがある、そういうふうになっていける場所となれば、これほどのリゾート地がある地域、外から人が来てもらうきっかけは確実にある。それをどのように作っていくか。定住者にしろ、人口減少に歯止めをかけられると信じている。外から人も来ない状況や人口が減少してしまえば、自分もそうだし、商店など、立ち行かなくなる。仕事上、アウトドアというカテゴリで仕事をしているが、来ていただくきっかけ、これがあるからというものを生み出せる中野市を目指していければと考えている。具体的にはわからないが、この部分については力になれるところと思う。</p>
委員	<p>中野市商店会連合会で活動しているが、その中で、まちゼミを積極的に進めている。全国でも行われているが、中野市では8月17日～9月20日までで、第4回目のまちゼミを開催する。今年、会長に就任して、このまちゼミを40講座をやりたいと提案してきたが、初めてこの40講座をクリアできた。今までになく多くの商店に参加していただいたが、商店に対して逆提案という観点で話しをさせていただいた。「何かをやってくれ」でなく、「あなたのお店ではこういうことをやって欲しい」「こういうことが出来るんじゃないか」と逆にアイデアを与えてあげる。その取り組みもあり40講座となった。</p> <p>須坂市でも、依頼を受け逆提案等の取り組みを紹介したところ、13講座が35を超える規模になった。近隣の商店の方々と共に、こんな近くにこんなプロがいるんだと、そういったことを改めて発見できるようなまちゼミのような取り組み、先ほどの関委員の話しにもあったが、外から入れる、外から来ていただくという部分も必要だが、地元にいる方々が、楽しみながら、自分のプロ</p>

	<p>としてのプライドも含めて外にアピールできるステージを作っていかなければならないと思う。</p> <p>そういった中で、まちゼミを成功させる。小さなスタートになるが、周りに知ってもらうこと、こない良い店が近くにある、すばらしいプロが近くにいる、ならば今度はこの店で買ってみたいという流れを作っていきたい。</p> <p>最近、インターネットで買い物したり、市外で買い物したりと思うが、外で買っているもの全てを中野市で買ってもらうのは難しいが、少しでも中野で買ってもらうきっかけ作りを、まちゼミなどの取り組みを通じて、広げていきたいと考えている。</p>
委員	<p>先日、富山県小矢部市に行ってきた。人口3万人程度の市で、初めて行く場所でも何も知らなかったが、何がビックリしたかというところ、クロスランドおやべという場所へ行った。人工芝が広がる公園があって、100mを超える展望台があって、食べる場所やパターゴルフ場や電車のレールが走っていたり、3万人の人口でよくこの施設が成り立つなど、不思議に思った。小矢部市の財政がよく維持できるなど感じた。</p> <p>人の集まる場所を是非、みんなで考えていけば、そこに何か生まれるのではないかと考えている。</p>
委員	<p>人口が減少していくことで税収が減っていく。観光に力を入れていく、税収を確保するには観光でお金を落としてもらう。中野市特有の目玉となることを考えていければ、観光客がお金を落とすしていく。</p> <p>人口を考える上で、転入者を増やしたいのか観光について考えいこうのか、方向性を決めていただかないと中途半端に終わってしまう気がする。人口を増やすような政策を考えるのか、観光客を増やすような議論をしていけばよいし、両方を見るとなるとどっちつかずな議論になると思う。</p>
委員	<p>人口は減っていく一方、中野市も小学校の統合を検討しているし、そういうところを市民が見てしまうと、子育て捨てたのかなと思ってしまう方も多いと思う。</p> <p>観光といえば、小布施町や山ノ内町、飯山市、野沢温泉に囲まれた通道のまち、というのが中野市のイメージ。中野市を支えているきのこ、雇用は多くある、延徳地区は人口が減っていないがそれは外国の方である。差別用語になるかもしれないが、日本人が増えていない、何故外国の方を雇ったかというところ、外国の方のほうが一生懸命働く。日本人を雇わないのかと聞くと、子どもが具合が悪いや行事があるから休みたい、当たり前のことなのだと思うが、時により働き手が減ってしまうことが困るということを知った。こういう話しも、JA青年部に入ったことで聞いた。自分は桃とりんごを栽培しているが、他の果樹等の栽培方法については仲間から話しを聞いたり、勉強したりしている。おそらく、果樹の栽培方法など知っている方は少ないと思う。以外に中野市にいるのに、中野市の産業のことを知らない。中野市を魅力的にするには、いろんな分野のことを知っていく必要があると感じている。農業で問題となっている、遊休荒廃地の増加や高齢化が進んでいる、だが、農家でない方が少しでも趣味</p>

	<p>の範囲で農業をすれば、いいかもしれない。こういう考えは農業に携わっている人には無い。できるかわからないが、そういう方向で進んで、食の分野で教育が進んでいけばいいと感じている。</p>
委員	<p>現状を知る、中野市に住み続けたいのかということを検証する必要がある。つまり、都会に出ていきたいという状況があれば、自然減の前に人口が流出していってしまう。中野市が魅力あるまちでなければならない、子育ての状況などを含めて、それが前提にある必要がある。</p> <p>中野市は農の分野で特徴を活かしていくこと、きのこでは圧倒的なシェアを持っている、他が太刀打ちできないきのこの生産地にしてしまうか。果樹でも多種に渡り生産されており、一年中食することができる。これは大きな魅力だと思うが、それを知られていないと感じる。</p> <p>3月にひな市があり、6月にバラ祭りがあったが、正直外から見ていて、中野のイメージとすればバラしか思いつかなかった。中に入ってくるとスゴイと感じるが、外から見ると知られていない。農業、多くの果樹があるので、大収穫祭みたいなものを企画してもいいんじゃないかと思っている。新しい人に来てもらうには、中野を見てもらう、中野に来てもらう仕掛けが必要である。</p> <p>そうすれば、副会長の話しにあったように、農業に関心を持つ人も出てくるのではないか。中野を見てもらう仕掛けづくり、きのこ・果樹・野菜に展開できればなど感じている。</p> <p>中野だけでは観光は難しい気がする。失礼ながら、中山晋平や高野辰之ではお客様は来ない。広域連携で小布施町や山ノ内町に大観光地があるので、その中で、中野はどういう役割を担ったらよいのか。北信濃を一体的に考え、それぞれの自治体が役割分担しながら魅力を上げていくことが必要かと思う。</p>
委員	<p>資料を見た中で、中野はやはり農業が一番の特化した産業といえる。この1次産品を2次産品、3次の流通・小売の関係とのマッチングができていないと感じている。農業というのは、旬に限られており、それを通年に引き伸ばして2次産業で製造できる体制を整える。それが結びつき6次産業化が拡大すれば、1次産業で生産された以上に、2次産業で付加価値を付け、流通も発展していくと感じている。</p> <p>また、中野市の農業の良さが、他の地域に発信不足でないかと思う。以前に話しを聞いたのだが、小学生の農業体験などで、首都圏の子どもを受け入れる施設を作り、これからの世代の方に中野市の農業はこういうものなんだようと、どんどん発信していく仕組みづくりをしていけば、故郷の農業としてインプットされ大人になれば、中野市に来たいと思う方も増えるのではないかと感じている。</p>
委員	<p>移住永住してもらうことが重要だと思うが、まちに魅力が無ければUターンもIターンの人も減ってしまう。中野市の魅力をPRしてもらって、移住に繋げていく。それには、福祉・学校・医療を充実していただいて、人を呼ぶ。</p> <p>企業誘致をすれば、そこに若者が社員として集まり、長い目で見れば、そこで何%かは定住に結びつくのではないかと思うので、今以上に力を入れていく</p>

	<p>必要性がある。</p>
委員	<p>年齢別の転入者について、20代の方が少ないという話があったが、30代では決して少なくはなく、UターンなのかIターンなのかはわからないが、長野市でも子育ての場所として東京などから移住されてくる方は沢山いる。少ない多いということだけでなく、何故帰ってきているきっかけがあるような気がする。</p> <p>目標人口についてですが、人口減少は止められないと思う。数字としてどれだけと議論するのではなく、適正値はどれだけかを考え、それを前提にどんなサービスができるのか、行政としてどんなサービスが提案できるのかということとを限界値にする。バランスはあるかと思うが、この人数まで減ったらこういうサービスができる、その兼ね合いをはかっていかないと、この数値が良いとは言えないと感じた。</p> <p>中野の印象という、観光地として有名どころもあるし、資源もあると思うが、観光地としては散漫な場所だと思う。ただ、暮らす場所としたら魅力的な場所であると感じている。農業など印象的なものがあるので、そういったものが近くにある暮らしは充実しているので、魅力的なまちとなり、その先に観光があるのではないかと。暮らしている人がキラキラしていて、そこに行きたいとなる。</p> <p>また、これだけの厚い資料の中で、女性の部分をこれだけ紹介されることは、女性が子どもを産むということがあると思うが、この会議の構成メンバーにも女性を参加させるべきでないかと感じた。</p>
吉原アドバイザー	<p>まとめは会長にお願いするとして、感想になってしまいますが、委員の皆様がご意見を持って、市に何かをしてくださいということだけでなく、こうした方がよいと具体的な話しをされていて、日頃の考えをお聞きできてよいと思う。具体的に意見を述べてもらうことは続けていただきたい。</p> <p>委員からの意見でもありましたが、長野市も含め10代後半から20代前半は進学で県外へ行ってしまいうので転出者が多い傾向がある。賛否両論の中で、県では県立大学を作るということで進めている。中野市では、30代前半で戻ってくる方が多いことについては分析する必要があるのではないかと。</p>
会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>各委員さんから貴重なご意見をいただきました。第1回目の会議でありましたので、本日いただいた意見をベースとして、第2回目以降の会議の中でご発言を活かしていただければと思います。</p> <p>この戦略会議は決定機関ではなく、意見を述べる場であるので、ご理解をお願いしたいと思います。</p>

7. その他

- ・他にご意見があれば、所定の用紙にて提出願いたい。

8 閉 会 (20:20)